

## 会 議 録

- 1 会議名  
第2回上越市新幹線駅周辺まちなみ検討会議
- 2 議題
  - 1) 開会（公開）
  - 2) 議題（公開）
    - 新幹線駅周辺地区のまちづくりビジョン（案）
    - 新幹線駅周辺地区のまちなみ形成方針（案）
    - 意見交換
  - 3) その他
  - 4) 閉会
- 3 開催日時  
平成21年6月26日（金）午前10時から
- 4 開催場所  
ラーバンセンター 第4研修室
- 5 傍聴人の数  
4人
- 6 非公開の理由  
なし
- 7 出席した人（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）
 

委員	飯塚むつこ、伊藤えり子、内山勇人、大島政義、黒野弘靖、 関由有子、田中弘邦、平野仁、水野一郎、本山雅彦
オブザーバー	奥野賢新潟県都市政策課長（代理：葦澤学宏同広域都市政策班 主査）、戸松裕新潟県交通政策課長（代理：金子学同主任）、 西田聡JR東日本新潟支社企画室長、斉藤浩同主席、佐藤正人 鉄道・運輸機構北陸新幹線建設局次長（代理：瓜生良知同計画 課長）、大森幸夫同計画課長補佐
事務局（上越市）	竹田淳三企画・地域振興部長、宮崎豊新幹線・交通政策課長、 瀧本幸次同副課長、伊藤伸同係長、飯塚賢治同主任、渡来美香 同主任、奥田博都市計画課長、市川公男新幹線新駅周辺整備課 長、山辺志信同主任、中西聡教育委員会生涯学習推進課副課長
委託業者	八千代エンジニアリング株式会社

## 8 発言の内容

(1)開会 (企画・地域振興部長より挨拶)

### (2)議事

新幹線駅周辺 (事務局より、まちづくりビジョン(案)について説明)  
地区のまちづく  
りビジョン(案)  
について

(平野委員) 駅前広場や駐車場の供用スケジュールはどのようになるのか。

(事務局) 駅前広場は東西とも新幹線開業時に供用できるが、東口のアクセス道路の取付は暫定的になる可能性がある。東口の街区は、新幹線開業後に信越本線の既設線撤去を行うため、開業後の整備になる。

(本山委員) 山麓線(県道63号上越新井線)からのアクセスは駅西側になるのか。

(事務局) 駅西側からとなる。

新幹線駅周辺 (事務局より、まちなみ形成方針(案)について説明)  
地区のまちなみ  
形成方針(案)  
について

### 意見交換

(大島委員) まちづくりビジョン(案)については、データや特性から論理的に導き出されていて良い。地域の持っている資源をど

のように引き出し、地域に結びつけるかが重要。

(水野座長) 上越市は直江津、高田などの現駅を中心に市街地が発達してきた経緯がある。そのため、新駅周辺の扱いについては難しく、上位計画等ではゲートウェイ(玄関口)として位置づけられている。住宅に例えると、新駅周辺はリビングや応接室ではなく、玄関として捉えられる。

(伊藤委員) 上越市の古いまちは直江津や高田の中核に集まっている。新駅を造るにあたっては、まちなみをどのような方向性にしていくかが重要である。ほくほく線の利用が無くなり、観光やビジネス目的の人が新駅に集中し、直江津、高田の中心市街地が衰退に向かうことが懸念される。

土地利用についても、来訪者へのおもてなしとして、商業機能を誘致することがもてなしとなるのか。上越や新潟への観光客は自然を求めている人が多い。このため、新駅周辺においても都会では味わえない魅力を考慮していく必要がある。例えば、駅前に商業・業務施設をすべて無くす案はどうか。駅前には田んぼや森などの田舎らしさがあった方がよい。

(事務局) 中心市街地への影響については、これまでも考慮して検討してきたところであり、新駅開業により中心市街地へは影響があるものと考えている。中心市街地については、現在、中心市街地活性化基本計画を作成し、活性化に向けた取組を進めている。決して新幹線のためのまちづくりではなく、地域全体がもっと元気を取り戻すために、新駅から中心市街地へ来訪者を誘う視点からも、ビジョン(案)の中で“みちびく”を提案している。

土地利用計画については、大規模な商業施設等を誘致することは考えていない。玄関口として、例えばホテルや土産店、レンタカーなど新幹線の乗降客に必要な機能を導入していく。

西口については、妙高山や頸城平野につながる風景を大切にしたい、自然的なイメージを持っている。

(都市整備部 都市計画課) 土地利用については、中心市街地の役割分担と新幹線駅としての機能を検討してきたところである。新駅周辺には、交通結節点としての機能と、利便機能の両立が必要である。

確かに、都会からの来訪者が求めているのは自然や田舎らしさであり、上越らしさをどう出していくかが課題と考えている。

土地区画整理事業としては、一つのまちとして計画したものであり、駅直近で田んぼを確保することは難しいが、後背に広がる田んぼや山々の風景をPRし、また、まちなみの中で演出していきたい。

(平野委員) 現在の新駅周辺は住んでいる人以外は何もない。都会からは観光やビジネスが主な目的になるため、移動の確保の観点からレンタカーや観光案内所、ホテルなどが必要である。その他には、事務所の誘致、会議などに対応したコンベンション機能も必要である。

上越市の観光は、観光地が点在していて分かりにくい。長期滞在型の観光を目指し、あわせてリピーターの確保、通年型の観光の確保も必要となる。長野や東京の通勤圏となるため、定住人口を増やすことも考えられる。定住までいかななくても、貸別荘なども考えられる。新駅は観光の起点となるものであり、観光による交流人口を増やす中で、定住人口の確

保も進めていければよい。

100年先を見据えて、本当に良かったと思えるようにしていきたい。はじめは最低限でよいので、進化していけるようなまちづくりを望む。駅や駅前広場から目的地へのアクセス方法が分かる案内や、遺跡も活用してぶらっと歩けるまちづくりが良い。桜の並木通りをつくり、高田のまちへ行くことを連想できるような工夫も考えられる。

( 関委員 ) 土地利用計画を見ると、公園は釜蓋遺跡と街区公園のみである。生産緑地などにより、みどりを確保するとか構想していなかったのか。遺跡の発見による計画見直し時に、上越市らしさとして田んぼや畑を積極的に確保していく方向性はなかったのか。商業・業務施設は将来的に荒廃しないか心配であり、緑地があると少しは違うのではないかと思う。

( 事務局 ) 生産緑地の構想はない。商業・業務系の土地利用は新幹線駅周辺のメリットを活かすためのものである。駅周辺のまちなみを周辺の緑豊かな風景といかに調和させられるかを考え、駅前に公園を配置している。土地区画整理事業は地権者も関係するため、現在の計画は最大限検討した結果としてご理解いただきたい。

( 田中委員 ) ビジョンの段階では具体的なイメージが見えてこないし、全体像としてどのようなまちにしていくのかイメージできない。どこにでもある普通の形で終わるならば、議論の必要はない。

新幹線の効果を過大評価したまちづくりではなく、西口は自然を活かして、東口は最低限の機能を配置することとしてはどうか。

ビジョンは作文で終わるのではなく、ビジョンに沿って周辺のまちをどのようにしていくかが重要である。自然を活かすのであればそれを前面に打ち出せばよいが、今の案ではすべて中途半端で何を特色としていくのか分かりにくい。

土地利用については、もっと掘り下げていく必要がある。

(大島委員) 新駅が備えるべき機能は相当ある。他の地域との関連を持たせるのも一つである。これから駅が果たす役割を具体的に引き出していく必要がある。

(本山委員) 本会議で何を議論するのか明確にする必要がある。ビジョンの中身については同感であるが、ビジョンの位置づけはどうなるのか確認したい。既に土地区画整理事業の区割りは決まっている。今後はビジョンを固めて各論へ進む必要がある。

どこの駅でも同じにならないように、森や田んぼの中にある新駅になってほしい。

ビジョンとしては、“ゲートウェイ”としての位置づけが前提で議論を進めていくのが良いのではないかと。

(水野座長) 本会としては、土地利用方針は定められたものとし、その土地利用を踏まえつつ、まちなみの景観を考えていくのが目的である。そのなかで、駅の東西では性格が異なるのではないかとというのが、今回の大きな提案であった。

他都市も含めて、北陸新幹線の駅の議論においてある程度確実視されているのは、一つは交流人口が増加すること、二つ目は都市機能が他の都市に吸収されることである。

上越市の新駅は、金沢や富山などの大規模な都市がない空白地帯にあり、上越の価値を高めるための重要な地域であ

る。広域で考えるとパイが確実に大きくなると推測できる。

企業の受け皿は土地区画整理事業のなかで用意してあるので、今回議論すべきことは、立地するときどのようにコントロールするかである。波及効果をどう地域につなげていけるかまで本会議において議論することは難しいが、関連する検討への申し送り事項として課題提起することとしていきたい。

(平野委員) 他の地区への働きかけも必要である。ビジョンの方向性までを考えるのがこの会議であれば、具体的な戦略は他の会議で検討していくべきである。今回は、提案されたビジョン(案)の内容で良いのではないか。

具体的には民間施設との調整を考えていく必要があることや、駅名も具体化していくことなどが今後の課題としてあげられる。

(水野委員) まちなみ形成として議論すべきことは、駅舎やエキナカ、駅前広場や街区公園、シンボルロードのデザイン、および土地区画整理区域内の景観をどうコントロールしていくかであり、その他の議論の内容は申し送りとする。

(飯塚委員) 特に、駅舎や駅前の景観が重要となる。今後の議論に向けて、歴史を重んじるのか、自然を重んじるのか、という大枠を定めたほうが良い。

(水野座長) その点については、どこかの時点で議論が必要となる。金沢駅でも様々な意見が出されたなかで、21世紀に最も新しいという方向性になった。どのような方向性に決めるかは地域の考え方である。もう少し議論が進んだ段階で決めた方が

よいと考える。

(黒野副座長) 新駅周辺には幸いにも自然や遺跡があり、それらの本物のものを大事にしていく必要がある。新しく造るところについては、ある程度自由にしても良いが、まがい物を造るより、今ある本物を大事にしていくことが重要である。

(水野座長) 高岡の新駅周辺でも、具体的な企業誘致が決まらないなかで、企業を誘致するゾーンをあらかじめセットしていた。今回の新駅周辺でも、ゾーニングの善し悪しの議論は既に終わっているが、東西の役割分担はこれからの議論であり、まちなみ形成上も重要なことである。

(平野委員) 東口の区画は、新駅開業までに売り出されるのか。

(都市整備部  
新幹線新駅  
周辺整備課) 新駅が開業する平成 26 年度末までに、東口の駅前広場や駐車場は供用開始する。しかし、その他の東口の区画は信越本線を撤去してからの工事となるため、ほとんど完成しない。

(水野座長) (駅部断面図により説明)東口については、新幹線のアクティビティがあり、高架下も商業的な利用がなされるであろう。新幹線を降りて、西口にも誘導する仕掛けがないと折角の妙高山の眺めも楽しめない。一方で西口は在来線であり、妙高山の眺めや遺跡がある。

このようなことから、東西の性格については、東口を“動”、西口を“静”として提案している。

(大島委員) 現在の地域の状況からも同様のことが言える。東口は交通面でも上越中心部への流れがあり、西口は静かで、水量が豊



富である。

妙高山の眺めについては、バルコニーを設置するなど駅舎等に関わってくるのではないか。

(黒野委員) 目標としては、開業時とその先の将来的な目標の2つがあるのではないか。高岡でも段階的に目標を設定しており、全てを開業時までにとというのは困難である。

西口の“静”は相応しいと思うが、今後具体的に検討していく上では断面図などを用いて、イメージを掴みやすいようにしてほしい。

(平野委員) 低層のホテルなど、高田や直江津と違った考え方で整備しても良いのではないか。

(内山委員) 東西の乗降客数のうち、在来線など地元の利用はどの程度なのか。

(事務局) 提示している推計値は新幹線利用者の値であり、類似駅の乗降客数を基に推計し、新駅東西の駅勢圏人口比に応じて東西の乗客数を算出している。地元利用と外からの利用については分析していない。

在来線については、現在の脇野田駅の乗降客数は1日あたり約260人程度であり、新幹線開業後も同程度で継続するだろう。

(3)その他 (事務局より、新幹線駅舎及び周辺整備の事例を紹介。)

(4)閉会

(水野座長) 今回は重要な問題提起、提案がされたと思う。これらを踏

まえながら、次回の検討に入っていきたい。  
(事務局より開会)

9 問合せ先

企画・地域振興部新幹線・交通政策課 TEL : 025-526-5111 (内線 1851)  
E-mail : kotsu@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。

## 第2回上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議

### 出席者名簿

氏名	在籍等		出欠等
飯塚 むつこ	公募市民	会社経営、カラーコーディネーター	出席
伊藤 えり子	造園工事業	(株)英香園取締役	出席
内山 勇人	商業・観光業	上越青年会議所理事長	出席
大島 政義	地元代表者	和田地区振興協議会会長 上越市北陸新幹線建設促進まちづくり協議会会長	出席
黒野 弘靖	学識経験者	新潟大学工学部建設学科 准教授	出席
関 由有子	建築士	せきゆうこ設計室主宰、一級建築士	出席
田中 弘邦	商業・観光業	上越商工会議所会頭、上越観光コンベンション協会 会長	出席
平野 仁	公募市民	会社役員	出席
水野 一郎	学識経験者	金沢工業大学環境・建築学部教授	出席
本山 雅彦	旅行業	(株)JTB 関東上越支店長	出席

#### オブザーバー

氏名	在籍等		出欠等
奥野 賢	新潟県土木部都市局都市政策課長		欠席
	"		代理
戸松 裕	" 交通政策局交通政策課長		欠席
金子 学	" " " 主任		代理
西田 聡	JR東日本新潟支社企画室長		出席
佐藤 正人	鉄道・運輸機構北陸新幹線建設局次長		欠席
瓜生 良知	" " 計画課長		代理
大森 幸夫	" " 計画課課長補佐		出席

#### 上越市(事務局)

氏名	在籍等		出欠等
竹田 淳三	企画・地域振興部長		出席
宮崎 豊	" 新幹線・交通政策課長		出席
瀧本 幸次	" 新幹線・交通政策課副課長		出席
伊藤 伸	" 新幹線・交通政策課係長(新幹線・並行在来線担当)		出席
渡来 美香	" 新幹線・交通政策課主任		出席
奥田 博	都市整備部都市計画課長		出席
市川 公男	" 新幹線新駅周辺整備課長		出席
委託業者	八千代エンジニアリング株式会社		出席